

すくすく

G E N K I

2012年10月

京都協立病院


小児医療課

日の暮れるのが早くなり、朝夕めっきり寒くなって来ましたね。日中はまだ過ごしやすいのですが、夕方になると肌寒く体温調節がしにくい季節でもあります。昼間暑いからと一枚脱いでいた上着を涼しくなったからと又着なおしてくれる子供は少ないのでは・・・

こどもに鼻水を「かんでごらん。」と言ってもなかなか上手にできなくて大変ですよ。鼻水が前に出ず、喉の奥にたれて刺激になったりもします。風邪をひいてゼーゼーいう子が増えてくるのもこの季節です。体調管理は、十分気をつけてあげてください。

RSウイルス



子どもがかかる「かぜ」の原因ウイルス  占めています。潜伏期はおおよそ4～5日、ウイルスの排泄は5～12日間くらいですが、もっと長くウイルスが排泄される場合もあるので、いったん保育園で流行しだすと防ぐことは困難です。

お母さんからもらう抗体でも感染を完全に防ぐことができないため、

生後1カ月でもかかります。2歳までに

ほぼ100%が感染すると言われていますが、

初感染だけでは十分に抗体ができないため、

同じ年でも1回かかって回復した後2～3週間で

またかかることがあり、再感染を繰り返します。

毎年冬に流行しますが、昨年は秋から冬にかけて流行し

今年もすでに流行がみられます。

RSウイルス感染症の最初の症状は鼻汁です。

同時かやや遅れて咳が出始め、咳で嘔吐することもあります。

発熱しない場合もありますが、乳児は38度台が多く、39度以上の高熱は幼児に多い印象です。約7割はこのまま数日で軽快しますが、残り3割は3～5日目頃に感染が気管支へと広がり、ヒューヒューとかゼーゼーを伴う咳になり呼吸数が増えます。重症化すると気管支の先の肺胞につながる細い気管支が狭くなって呼吸が苦しくなり、胸が凹むなどの呼吸困難が起こり、水分も飲めなくなります。このような状態になると入院が必要となり、点滴、吸入、酸素投与などをしながらよくなるのを待ちます。また、新生児から生後3ヶ月



未満の乳児では、無呼吸発作を起こす事もあり注意が必要です。特別の治療法はなく、重症化しなければ1週間くらいで快方に向かいます。

一般に生後6ヶ月未満の乳児、低出生体重児、あるいは心臓や肺に基礎疾患や免疫不全があると重症化するリスクが高くなります。再感染を繰り返す毎に、症状は軽くなっていき、小学生以上では軽症となっていきます。

インフルエンザワクチン 開始

10月22日（月）から、インフルエンザワクチンを開始します。

インフルエンザワクチン（予防接種）は不活化ワクチンといって、生ワクチンのように生きてウィルスが入っているわけではありません。不活化ワクチンは、できる抵抗力が弱いので翌年まで効果が持続しません。ワクチンを接種してから、効果が出るまでに2週間くらいかかるといわれています。流行前に十分に効果があらわれるように、11月末くらいまでに済ませるようにしてください。



インフルエンザワクチンのみの外来



【完全予約制】

	火曜日 午後5:00～	土曜日 午後1:30～
10月	30日	27日
11月	6日、13日、20日、27日	17日、24日
12月	4日	1日

お電話でも予約できますが、午後13:00～16:00までをお願いします。

料金

1回目	3500円
2回目	2100円

一般外来でも、接種させて頂いています。

又、こどもと一緒に保護者の方も小児科で接種させて頂きます。